

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

1月2日(月)

新潟市の議員が10人視察にきました。正直、当校職員、当校児童・生徒からすると迷惑かなとは思いましたが受けました。メールでのやりとりで、真剣に国際貢献を考えていたからです。彼らの仕事の関係で、高雄港の視察、さらに、台湾理解のために烏山頭も行ってきたのです。そして、新潟市は1858年の日本で港を開いた5港のうちの一つです。外国となんとかしていこうという気概はあります。また、新潟・桃園に1月12日から直行便が就航しました。台湾と新潟との関係も深まること、などを考慮しました。(実際、今、いる子どもたちに何か生まれるということは全くないでしょうが。)

1月22日(火)

体験入学に1年生3人、2年生3人、5年生1人がやってきました。普段は月2回、お母さん方が国語(日本の国語の教科書を使い)を中心に教えています。体育や季節ごとの企画もあります。こちらの夏休みに合わせて、日本の学校にも体験入学をしています。私と教頭で体験入学のための面接をしました。日常の言葉ではお母さんとは日本語で話しているという子がほとんどでした。日常会話には問題がありません。学校では、もちろん北京語での学習です。体験が終わっても何らかのつき合いができることを期待しています。

土曜日の学習発表会の練習を1年教室でしていました。ちょうど踊りを練習しているところです。動きはかなりいい感じです。が、そこに言葉がついているので、うーうー、正直、聞き取れませんでした。見た目は、十分楽しい。

4年生の学習で、将来の職業調べをしています。子ども達は見える範囲のことから、調べていると報告を受けています。そこで、なかなか子どもの目からは見えないこともあるんだということを伝えるために、保護者に登場してもらったそうです。(私は、聞きにいないもので)教頭は、参加して、「4年生にわかりやすく話をしてくださいました。」とお礼を言っていたのを聞いて、工夫されたものと、大変感謝です。

1月23日(水)

1時間目に学校を回ってみました。通常の授業をやっていました。落ち着いた感じを受けます。4階ホールの割り当てで4年生が発表の練習をしていました。台詞や歌などは覚えて、細かな動きをチェックしていました。また、暗記はほぼ完璧でした。これから、さらに磨きがかかるでしょう。あと、数日でやってくれるでしょう。

3時間目には、4階ホールに行ってきました。3年生が発表でやる跳び箱や歌をやって

いました。4年生に比べると、人数が少ない分出席が多く、何役もこなしていました。一人一人の声の大きさはいいので、後ろまで届くといいのにと感じました。中島先生には伝えておきました。

4月から派遣されてくる先生方の研修会が、今週、東京で行われています。また、新しい講師の先生方の台湾での労働許可をとる書類を申請するために林さんに書類を作ってもらい、動き始めています。年度末の仕事とともに来年度の初めの準備もしています。もし、帰国や転勤などで当校を去る場合、はやめに担任にお知らせください。

1月25日(金)

学習発表会本番Ⅰがありました。明日は、本番Ⅱです。

1年生 よーくあのながーーーい「寿限無寿限無・・・」を覚えました。

2年生 1年間何をやったかよくわかりました。九九もすごい。「まちがい」の暗唱も全員で声を合わせての台詞も全員がそろっていて素晴らしかった。

3年生 さすが、3年生ははっきり相手に届くように声を出していました。最後の、とびらの穴あき場面「すごい！」

4年生 総合の1年間のテーマ「二分の一成人」から職業調べ、夢を劇仕立てにしての発表でした。よく練習していた感と不良の思いっきり感が見物。

5年生 陳俄安さんの生き方から、原住民、料理、高砂義勇軍などについて発表がありました。

6年生 温暖化とエコについて発表がありました。いろんな分野でした。世界の子ども達のところでは、劇仕立てでおもしろく工夫されていました。

(特に、5年生と6年生は、自分たちの学習をストレートに発表をしていました。発達段階の違いを見ました。このような学習発表会に切り替えた理由は、過去に中学生や高学年が見ている人に合わせて内容やレベルを低めてしまったという大きな問題がありました。5年生と6年生に関しては確かに下の学年の子どもにとっては難しかったでしょうが、それを聞くのも勉強です。)

この発表の前に私の挨拶で「お客さんの態度で演技や発表する人はまったく違ってくる。失敗したところで笑うのは、だめ。でも、おもしろいところはしっかりわらってください。」と挨拶をしました。終わってみれば、私がそこまで言う必要もなかったようです。各自が真剣にやっていることを互いにわかっているもので、いくつか失敗はありましたが、それは、どうということがないように観客は流していました。

発表前は、そうとう緊張していました。6年生が私の前に座っていましたが、緊張が伝わってきました。原稿も読むのではなく、台詞として入れていたのでそうだったのでしょう。

第Ⅱの本番は、どのようになるでしょう。昨年も感動を呼びました。どうぞ、ご自分のお子さんだけでなく、その前後も、できれば、すべて見てやってください。